

# P4-5 東北がんネットワークがん登録専門委員会施設でのがん登録の実際

佐藤真弓<sup>1,3</sup>、竹島楓香<sup>1,3</sup>、菅原裕実恵<sup>1,3</sup>、金村政輝<sup>1,2,3</sup>

## 【目的】

1)宮城県立がんセンター診療録管理室 2)宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部 3)東北がんネットワークがん登録専門委員会

東北地方の主にがん診療連携拠点病院で構成されている東北がんネットワークでは、8つの専門委員会があり、私たちはその一つであるがん登録専門委員会に所属している。令和4年度にはがん登録データの集約や活用についてアンケートを行い、令和5年度はがん登録データの公表や人材育成等も追加して実施した。令和6年度になり、がん登録実務の共有と、標準化によって作業の負担軽減になるのではないかと考えて、がん登録作業で負担がかかっていることなどを知るため、各施設における実務者の認定状況や研修参加、登録に迷った時の解消方法などの項目を増やしてアンケートを行い集約したので報告する。

## 【方法】

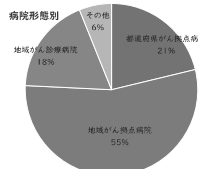
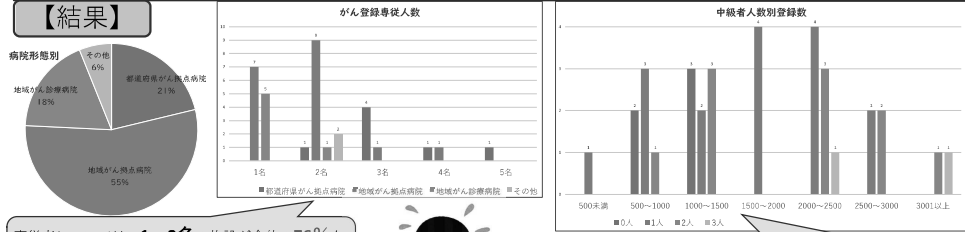
がん登録専門委員会に加盟している35施設のうち、連絡先が届け出されている34施設にアンケートを送付した。33施設から回答が得られ、回収率は97%だった。内容は、病院形態、登録実務者、品質管理、全国集計、予後調査、年間集計、生存率集計、研修への参加、人材育成、データ利用、委員会、QI研究参加、がん登録実務における負担、登録に迷った時の解消方法、課題、課題への対応状況の16項目とし、エクセルのアンケートを専門委員会のメーリングリストを利用して送付した。

## 【がん登録実務における負担の内訳】

← 実務者としては最も興味深いところ！！

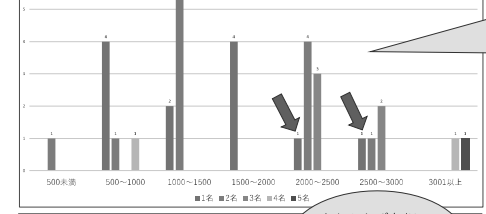
①ケースファインディング②ダブルチェック③全国集計提出前チェック④全国集計提出⑤生存率全国集計のコメント提出⑥予後調査⑦年間集計(独自集計)⑧生存率集計(独自集計)⑨研修への参加⑩実務者育成・後進指導⑪院内でのデータ利用への対応⑫がん登録に関する委員会開催⑬QI研究への参加⑭その他

## 【結果】

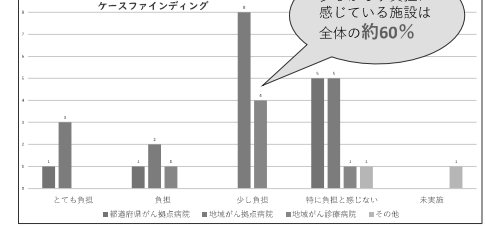


専従者については、1~2名の施設が全体の76%を占めていた。うち、1名の施設は全体の36%だった。

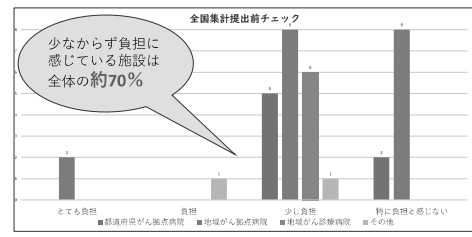
各施設の中級者人数で見ると、3000件を超える登録数では複数名の配置となっているが、一方で、1000件を超えても中級者がいない施設は全体の24%となっていた。



がん登録の実務者人数別に登録件数を見ると、2000件を超える、あるいは2500件を超える登録数の施設にもかかわらず、1名で登録実務を担っている施設があった。実務を担っているのは中級認定者ではあったが、国が1名の目安とされている1000件をはるかに超えたものとなっており、継続性の観点からも非常に危惧される結果となった。

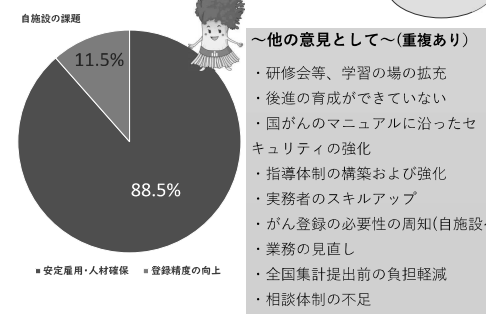


少なからず負担に感じている施設は全体の約60%



少なからず負担に感じている施設は全体の約70%

## ～自施設の課題等～ \* 回答率78.8%



- ～他の意見として～(重複あり)
- ・研修会等、学習の場の拡充
  - ・後進の育成ができていない
  - ・国がマニュアルに沿ったセキュリティの強化
  - ・指導体制の構築および強化
  - ・実務者のスキルアップ
  - ・がん登録の必要性の周知(自施設へ)
  - ・業務の見直し
  - ・全国集計提出前の負担軽減
  - ・相談体制の不足

## ～登録で迷った時の対処法～ \* 重複回答あり



## 【考察】

アンケート内で課題を聞いたところ、約80%の施設が何らかの提示をしており、その中で約90%が安定雇用および人材確保についてのものであった。それに伴って、後進の育成や登録精度の向上、自施設に対するがん登録の周知や業務見直しについての要望などもあり、実務者だけでは解決できない課題だと感じた。また、今回、登録のダブルチェックや自施設での集計等の実施有無も聞いており、未実施を含めると、70~80%以上で負担と回答されている。人材確保が課題としてあることを考えると、がん登録実務者は登録業務だけでなく手いっぱい、それ以外に手が回らない状況であることがうかがわれた。

日本がん登録協議会  
第34回学術集会  
COI開示  
筆頭演者名：佐藤 真弓  
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません